

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520510

研究課題名(和文) オモ系少数言語バスケット語の文字選択および母語教材作成に関する調査研究

研究課題名(英文) Research on selecting the writing system and making the texts for Basketo native speaker

研究代表者

乾 秀行 (Hideyuki, Inui)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：10241754

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：少数言語が将来も安定して生き続けるためには、言語を表記するための文字が必要である。エチオピアの少数言語の場合、作業語であるアムハラ語が深く浸透しており、日常生活を送る上で無視できない存在である。そこで文字を持たないオモ系西オメトグループの少数言語バスケット語が、アムハラ語と同じエチオピア文字を用いて表記すべきか、それとも音と文字が比較的適切に対応づけるローマ字を用いて表記すべきか、母語話者に意向調査を行ったところ、彼らはローマ字表記を選択した。それに基づいて、母語話者のためのバスケット語教材として単語編、文字編、会話編、例文編、文法編の5つを作成し、バスケットにある3つの小学校に配布した。

研究成果の概要(英文)：Basketo is one of minority languages spoken in the South Western part of Ethiopia and belonging to the West Omoto group of the Omotic branch. There is no writing system in Basketo. The study aims to select the writing system and establish the orthography for Basketo native speaker and to make the texts for them.

Using the roman writing system, we made the texts of letters, words, conversation, sentences and grammar.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：エチオピア 少数言語 バスケット語 母語話者 教材作成

1. 研究開始当初の背景

現在エチオピアには 80 を越える言語が話されており、特に南西部にはオモ系の少数言語が数多く存在している。しかしその大半は文字を持たない言語である。本研究で対象とするバスケット語もその 1 つである。研究代表者がここ数年バスケット語の文法記述を行ってきたけれども、これまでの研究成果を母語話者に還元するために、母語話者のための教材を作成することを本研究では目指している。その前提として、バスケット語の文字選択および正書法をどうするかという大きな課題がある。

これまでの文法記述では、当初音素表記で記述していた。しかし、基本動詞の例文テキスト集を作成する段階で、母語話者が利用できるテキストを作成すべきであると判断し、エチオピア人にとってわかりやすいローマ字表記を採用した。ところで、2009 年 11 月にアジスアベバ大学で開催された第 17 回エチオピア学国際会議でバスケット語に関する研究発表を行った際、SIL の文字化活動の現地コーディネータである Aija Katriina Ahlberg 氏から 2008 年 6 月に SIL が出版したバスケット語の識字教育用テキスト (Baskeet Fidela Mats'aafa "Basketo letter's book") とテキスト集数冊を渡され、是非式辞活動に協力して欲しいとの依頼を受けた。これらの教材はエチオピア文字で表記されており、エチオピア文字という選択肢があることを知った。しかし、バスケット語にしか出てこない音を表記するため、わざわざエチオピア文字を改変しているため、そのような文字を母語話者が理解できるのか大いに疑問に感じた。またその会議でも文字を持たない少数言語の文字選択のテーマで、活発な議論がされていたが、少数言語を文字化する場合、特にエチオピア人研究者が一樣にエチオピア文字による表記を強力に、時には感情的に主張していた。これは、エチオピアという国家の同一性を強く意識した発言であり、文字選択に関して慎重に取り扱うべきであることを認識した。

2. 研究の目的

本研究では、エチオピアで話されているオモ系少数言語で、無文字言語バスケット語の文字化活動を通じて、次の 2 点を行うことを目的としている。

(1) 少数言語の文字選択に関して、エチオピア文字とローマ字のどちらが相応しいか、文字の適性、母語話者の識字率・利便性、国家としての同一性の観点から、総合的に調査研究する。

文字の適性：バスケット語にはエチオピア文字では表せない入破音や有声声門摩擦音がある。またアムハラ語には出てこない重子音表記や長母音表記も弁別的である。仮にエチ

オピア文字で表記するとした場合、バスケット語表記のために新たに必要となる音素のために、エチオピア文字を改変する必要が出てくる。またエチオピア文字の音節文字の性格がバスケット語表記にとって障害になるかどうかも焦点となる。ちなみに、SIL のテキストでは、重子音および長母音を表すために文字にドットを加える方式が採られている。一方、ローマ字で表記するとした場合、入破音および重子音・長母音を持つオロモ語やウォライタ語の正書法を参考に、新たな音素の正書法を提案することになる。ただし、表音文字なので、音と文字の間の対応関係はエチオピア文字に比べて柔軟性があると思われる。

母語話者の識字率・利便性：高齢者の識字率は高くないけれども、若年層の多くは、学校教育の場でエチオピア文字を身につけているので、文字を新たに覚える必要性は殆ど無い。しかしまた、最近は英語教育も盛んで、若年層を中心にローマ字表記に対する抵抗感も少ない。さらにアムハラ語と人口面で拮抗するオロモ語地域やオモ系大言語ウォライタ語やガンモ語話者が住む南西部地域では、彼らの言語を表記するためのローマ字表記が街中の看板などに溢れている。作業語としてのアムハラ語と自分たちの言語を使い分ける際に、異なる文字体系を用いているのである。これがバスケット語にも当てはめるべきかどうかなど、どちらの文字選択が適切かを母語話者の意向も踏まえて検証することになる。

国家としての同一性：政治的・経済的・社会的に見て、アムハラ語を日常的に使う環境にあるすべてのエチオピア人にとって、エチオピア文字はなくてはならない存在である。しかし、アムハラ人と肩を並べる人口を有するオロモ人にはローマ字を用いたクベ (Qubee) があり、それはエチオピアにおいて現在ある程度定着しており、出版物や新聞も出ていけば、国営のテレビ放送もされている。問題は人口も少なく政治的・経済的にも弱い立場にある少数言語の場合である。限定的な地域で話されていることを考えると、将来的にもメディアによる文字の普及は考えにくい。少数言語は、母語話者が望まないのであれば、文字言語を持たないのも 1 つの選択肢となるであろう。本研究は母語話者 5 万人のバスケット語を例に、多言語国家の中で少数言語がどういう形で存在し続けるか、文字選択を 1 つのヒントにしながら調査研究する。

(2) 世界的に少数言語の文字化活動を行っている SIL (Summer Institute of Linguistics) が 2008 年 6 月に刊行したバスケット語の文字テキスト (エチオピア文字採用) を検証する。SIL のテキストは、現地教会スタッフと地元の複数の高校教師が中心になって作成されたものである。しかし彼らが作成した識字用

テキスト及びテキスト集を試験的に検証してみたところ、不適切な語例、文例が数多く見つかり、またバスケット語の文法説明がほとんどされていないことが判明した。実際小学校で聞き取り調査をしたところ、他に代わる母語テキストがないために仕方なく使用しているけれども、テキストの評価はあまり高いものではなかった。特にエチオピア文字による表記が定着していないため、子供たちが書かれている文字を正確に読めないようであった。そこでそのテキストの問題点を整理し、母語話者のために必要と思われる文法記述を加えたテキストを作成することを目的にする。

3. 研究の方法

本研究は、エチオピアの首都アジスアベバから南西に約500キロ離れたバスケット語母語話者居住地域を中心に調査研究を行うものである。現地調査には、総括するアジスアベバ大学エチオピア学研究所の許可が必要である。リサーチ・レポートや調査契約書などの所定の書類を提出して調査許可を得て、研究者IDカードを取得する。また同大学の研究者と本研究テーマに関して議論をすると同時に、試作品テキストの検証をお願いする。

(1) SIL 作成の識字テキストおよびテキスト集のエチオピア文字をローマ字表記に変更して、表記上の問題点を整理しておく。

(2) 文字表記の選択に関して、エチオピア文字表記とローマ字表記両方の単語や例文を母語話者に提供し、どちらが相応しいか意向調査を行う。

(3) インフォーマントと共に、単語リストの完成、会話及び例文の収集、文法項目の決定を行い、アムハラ語および英語による対訳を付ける。

(4) 母語教材としてバスケットにある小学校および教会に文字、単語、例文、会話、文法の試作品テキストを準備して提供し、一年間使用した結果、最終版に反映させる。

(5) 最終版テキストは、必要部数印刷して、バスケット語母語話者が住む地域の小学校などに配布し、バスケット語教育に活かしてもらう。

4. 研究成果

文字を持たない少数言語が将来も安定して生き続けるためには、言語を表記するための文字が必須である。エチオピアの少数言語の場合、エチオピア文字表記かローマ字表記か、どちらが相応しいのか一年かけて母語話者に意向調査を行ったところ、彼らはローマ字表記を選択した。バスケット語母語話者は、小学校でも母語教育の時間があることもあ

って、文字の必要性を実感していた。

試作品テキストには音声ファイルを付けることも検討していたが、学校教育の場では、音声ファイルを付けるよりもむしろ絵を付けた方が効果的であるとの指摘を受けた。

それに基づいて、母語話者のためのバスケット語教材としてバスケット語以外にアムハラ語および英語対訳を付けた文字編、単語編、会話編、例文編、文法編(小学校教師用)の5つを作成し、バスケットにある3つの小学校に配布した。なお、文字編と単語編はそれぞれ小学生低学年を想定し、絵付のテキストにしている。最終版テキストを紙媒体として渡すだけでなく、電子媒体としてUSBメモリに保存したのもも付けたので、随時教育現場で必要に応じて人数分印刷して使えるようにして、利便性を高めた。また現場教師とはメールアドレスで連絡できる関係を築いたことで、教育現場の声をすぐにフィードバックすることができ、それに基づいて今後も改良版を作ることが可能となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

乾秀行、バスケット語テキスト、Studies in Ethiopian Languages、査読有、vol.3、2014、pp.1-23

乾秀行、エチオピア言語調査用基本動詞例文集、Studies in Ethiopian Languages、査読有、vol.1、2012、pp.48-211

〔学会発表〕(計1件)

乾秀行・柘植洋一、GISを用いたエチオピア諸言語のデータベース、第21回日本ナイル・エチオピア学会学術大会、2012年4月22日、京都大学稲盛財団記念館(京都市)

〔図書〕(計5件)

乾秀行、母語話者のためのバスケット語教材(文字編)、山口大学、2014、9

乾秀行、母語話者のためのバスケット語教材(単語編)、山口大学、2014、50

乾秀行、母語話者のためのバスケット語教材(文法編)、山口大学、2014、25

乾秀行、母語話者のためのバスケット語教材(会話編)、山口大学、2013、26

乾秀行、母語話者のためのバスケット語教材(例文編)、山口大学、2013、59

〔その他〕

ホームページ等

<http://ds22n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~abesha/SEL/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

乾 秀行 (INUI, Hideyuki)

山口大学・人文学部・准教授
研究者番号：10241754